

高津区おはなしアーカイブ

●筒井 進 (つつい すすむ) さん

昭和13年生まれ 79歳

川崎市高津区坂戸在住



◆生い立ちを教えてください

生まれたのは坂戸です。今住んでいるこの場所で生まれ育ちました。今の家は12年前に建て替えましたが、前の家は明治からあった家でした。先祖のお墓には元禄と刻まれている墓石もあります。菩提寺が遠いので、以前は内墓も近くにありました。現在のグリーンスイミングの正面の場所です。あんなところに墓があるのもなんだっていうんで、お寺に墓を移しました。菩提寺は下平間にある称名寺です。このお寺はすごく古く、浄土真宗

のお寺ですが昔は真言宗だったらしいです。赤穂浪士が平間村に潜んでいたことがあり、そのときの史跡がお寺に残っていて12月14日には見学者がやってくるそうです。

◆家族について

私は5人兄弟の一番上で、私のすぐ下は妹、3番目が弟、4番目が妹、5番目が弟です。

家は農家でした。父親は祖父と一緒に農業をやっていましたが、出征し、昭和20年7月、終戦の少し前にフィリピンのミンダナオ島で戦死しました。食糧難で戦病死です。

戦後、母親は、父親の弟と再婚しました。直系でいえば私がこの家の直系ですが、母親が叔父と再婚しましたので、最終的には私も叔父と養子縁組をしました。弟二人は数え年の4歳で亡くなりました、実際は3歳ですよ。幼い子は育ちにくいといわれていました、そんな時代でした。

◆終戦前後の坂戸周辺の様子

昭和40年代くらいまで、この辺り一帯は田んぼ。稲作が主で、畑は少なかったですね。私のここの家から南武線が見えたんです。今の、第三京浜の向こう側、あの辺り一帯も田んぼばかりでなにもなかった。

文献を見ると、昭和4年の坂戸の戸数は48。人口が314名。男が161名、女153名。48戸のなかで、農家は36戸くらいだったんじゃないか。そのうち今は本家がなくなった家が3軒。ほとんどが農家で田んぼばかりでした。

私が覚えているのは、高橋さんのところが酒屋、「はしば」というお店をやっていて、お米屋さんもあったような気がするね。当時、お魚をリヤカーで売りにきました。肉はつねかわさんの家が高津小学校のところにあったかな、あの辺りに店があったような記憶があります。町内にはお店がなかったので、そこまで買いに行きました。洋服など特別なものは溝口辺りまで買いに行っていました。昔は今みたいな贅沢なものはありませんでした。

子どもの頃はつるべの井戸とポンプの井戸と両方ありました。つるべでくむよりポンプの方が多かったですね。こちらの水は鉄分が多かったものだから、布をポンプの出口につけて濾していました。中学生くらいになったら水道が使えるようになったのかな、記憶ははっきりしていません。

電気はあったような気がします。ガスはプロパンガスになったのがいつだったかな。子どもの頃のお風呂は薪でした。風呂桶は木製の大きな楕円型というか小判形で、焚き口が

あり、うちの周りは木がいっぱいありましたから、それを薪にしてね。農家は汚れるでしょう、土がついたり汗をかいたり、だから農家にはお風呂はあったみたい。昭和40年代になるとお風呂屋さんができてきて、銭湯はかなりの数がありましたけどね。

あと当時、大井町線が二子橋の所だけは路面電車になって道路を走っていましたよ。

◆戦争中のことで覚えていること

戦争中、この辺りは流れ弾がよく落ちてきました。今は住宅になっていますが「中島電気」という軍需工場があったんです。今のKSPのところも「池貝鉄工」という軍需工場。今のヨーカ堂がありますね、あそこが日本光学。この裏側の北見方に日本通信。全部が軍需工場。工場に囲まれていたから、ここら辺も空襲されたんでしょう。田んぼの中に落ちたものは、田んぼに穴が開くだけで爆発しないのが多かったけど。やられたのは焼夷弾。焼夷弾は燃やすのを目的にしているからね。それがうちの庭に2発落ちたんです。1発目は柔らかいところだったから不発だったけど、2発目は爆発してはねたわけです。そのとき垣根が燃えたんです。近所の人々が皆で消しに来てくれたんですけど、焼夷弾って油が燃えているから水をかけても消えない。皆がスコップを持ってきて土をかけたなら消えま

したが、怖かったです。私の家では、庭先すぐのところの、もうひとつ焼夷弾が落ちたところにコンクリートででっかい防空壕を作って家財道具なんかを入れたんです。中島電気に勤めている女工さんが空襲にやられたって泣きながらこちらまで逃げてきたのをうっすら覚えています。

◆子ども時代(昭和20年～)

昭和20年の4月に高津国民学校に入学しました。入学した頃はまだ空襲の激しい時期で、子どもの足では学校まで1時間くらいかかるのですが、登校中に空襲警報が発令され、学校に行かずに帰って来ることもしばしば。戦争中は学校までたどり着けなかったの、安養院というお寺で勉強しました。

安養院には、ちょっと面白い木がありましたね、馬の背中みたいな木で、それによく登っていました。あと墓地では遊ぶなってよくいわれていました。この辺りは昔、土葬だったんです。土葬はある程度時間が経ったら棺が腐ってバサッと盛り土が落ちるんです。だから墓地で遊んでは駄目だって。

土葬の時は、宗派ごとに存在していた宗教講の仲間たちがご遺体を運ぶのをお手伝いしたんです。火葬をする人は少なかったんだけど、昔は火葬にも「特等」、「一等」などの等級があったんですよ。伝染病の人は特等

で焼くといったことがありました。

小さい頃は、結構危険な遊びをしていましたね。鉄砲って言って、二股の木の枝にゴムをつけて、石を飛ばすんです。それをお寺の竹藪でやりましたね。友達と二手に分かれて、撃ち合っていましたよ。今考えるとゾっとするような遊びですね、よく石に当たって怪我をしなかったなって。ほかには竹でチャンバラごっこなんかもやりました。竹の棒でたたき合うと、竹が割れてささくれになって、それが刺さって怪我したなんてこともしょっちゅうありました。あと、小学校に入ってから、柔らかいボールで野球をしました。道路でやっていましたよ。昔の道路っていうのは人も通らないし、車なんかほとんど通らないから、道路で遊べたんですよ。あとは坂戸御嶽神社の境内に、ちょっと広いところがあるので、馬跳びとか、押しくらまんじゅうとか、そんな遊びをしていました。

玉音放送も聞いたとは思いますが、なにせ小学校1年生だったから、意味はほとんどわからなかったんじゃないかな。

終戦になって、今の府中県道ってありますよね、409通り、まだ舗装していなくてね、車なんて滅多に通らなかった道に、進駐軍がジープを何台も連ねて来たのを覚えています。大井町線は平面交差でしたから電車が来ると車は止まっちゃうんです。そうすると子

どもたちは食べ物をもらおうと手を出すんです。兵隊さんも持っていたんでしょうね、ガムとかチョコレートとか日本じゃまだ食べられなかったものをもらっていました。

◆戦前の暮らし、戦後の暮らし

戦前は普段も着物を着ていたね。草履を履いて。あの当時はももひきっていうのかな、あれを履いていました。新しいものなんて滅多になくて、お古が多かった。それでもお正月になると新しいものを買ってもらえたんです。下着も全部新しいものになってね。

小学校のときは洋服だったと思う。お下がりが多かったかもしれないけど。

終戦後は教科書がない、カバンもろくなものがなかった。教科書は上の方が使ったお古をもらって、それを風呂敷で包んで持って行った記憶があります。あと、兵隊さんが使うカーキ色の小さいカバンで通ったこともあったね。ランドセルというのは全く記憶にないんだよね。小学校は午前と午後の2部制で、給食もありましてね、パンと脱脂粉乳、それから赤いお砂糖。砂糖が赤いからミルクに入れるとうっすら赤く色がついちゃう。そんなものが学校で出された記憶があります。

私が6年生のときに東高津小学校が新しくできました。高津小学校に6年生の半年いて、工場の跡地に東高津小学校ができて、そ

ちらで半年間勉強しました。東高津小学校はできたものの、校舎はまだできあがっていませんでした。卒業式は新しくできた東高津小学校で迎えました。だから私は東高津小学校の第1回生になるんですよ。

◆学生時代（昭和26年～）から就職へ

中学校は高津中学校に行きました。中学に入学したときにはすでに新制中学になっていて、3年間通いました。中学校の校舎は戦後、日本光学の跡地にできたもので、私は卒業するまでそこでした。今、中央支援学校があるところが高津中学校だった場所です。今の高津中学校の場所がありますよね、あそこはグラウンドでした。中学校を出て、道路を越えてずっと先まで行って運動したわけです。1学年8クラスくらいありました。1クラスは50人いたのかな、1学年400人くらいいましたから。

私たちがいた当時、橘中学校はなかったの、この辺一帯の子は全部高津中学でした。西高津中もなかったし、橘の方からも高津中学に来ていました。南武線を越えて久地の辺りからも来ていました。通学は歩きです。放課後は、今の子どもたちと同じように、当時も部活動がありました。私は野球をやっていました。試合は3年生じゃないとなかなか出

してもらえなかったですね。中学のときはユニフォームがあったね。だんだんものが豊かになって、だいぶ戦後の食糧難からも脱出していました。

食料に関しては、うちは農家をやっていたから町の人に比べれば食べるものはあったのではないかと思います。ご飯は白米じゃなくて半分くらいは麦飯でした。中学校にあがったときも、あまりはっきり記憶がないですけど、麦飯はずっと続いていたかな。

中学校の修学旅行は京都・奈良に行ったんじゃないかな。今みたいに新幹線が走ってなかったから、夜行列車で車中泊だったと思うんだけど、修学旅行の記憶もあまり鮮明じゃない。それでもまあ子ども同士だから楽しかった。

高校は県立川崎工業高校に進みました。当時実家は農家だから、都立園芸高校とか農業関係の学校に行けっていわれましたが、中学3年のときに情勢が変わり、もう農家の時代じゃなくなってきた。それなら工業の方が良いだろうって。その当時、1学年で3割が高校へ行けたらいい時代でした。高校の数も今と比べたらびっくりするくらい少ないです。県立が2つと市立が高津、橘、川崎、川崎商業、これだけしかなかった。高校へ行きたいといっても大勢は行かれない。特に農家はね。私はたまたま農家を継ぐ必要ないって

いうことで進学できたんです

入ったのは土木科だったので、休みの日もダムを作っているのを見に行こうって、友達同士で小河内ダムとかに行きました。将来は土木屋として土木関係の仕事をしたと思っていました。高校卒業後は役所に入りました。役所に入って少し経ってから、勉強をした方が良いついていうので夜間の攻玉社工科短期大学で勉強しました。あの頃の役所は、夜学に行くと将来役所の財産になるっていつて奨励していたんですよ。午後4時から学校に行って良いよと、優遇してくれたんです。在職中には東扇島の設計などをやりました。

◆「講」と神社とお祭り

坂戸には昔から、「講中（こうじゅう）」というのがあったんですね。坂戸御嶽神社の講。神仏に詣でたり、お祭りに参加したりする信仰者の集まりです。大山講というものもありました。大山阿夫利神社は雨乞いするためにある神社なんですよ。農家は雨が降らないと困るんでね、だから8月頃、田植えが終わってから大山にお参りに行くわけですよ。昔は歩いて行ったんでしょうけど、今はバスでね。そういう講があります。あと、農家には、農家独特の講中もありまして、「地鎮講」というのがあります。土地の神様ですね。例祭

は年に2回、春と秋にあります。この地鎮講というのは、土の神様だから、農家の方は土をいじらないで休みなさいよという意味かなど。講中は皆が集まって、お茶飲みながら何かしゃべるといふか、情報交換の場だったんですね。春の地鎮講では、農家に関わる総会をやったり、神社の収支のことをやったりしています。

あと、仏教に対する講中というのものもあるんです。これは、念仏講というのが昔からありまして、坂戸の寺は真言宗なんですけど、真言宗の念仏講もありました。今でもまだあるのは日蓮宗の念仏講だけですけどね。

神社のお祭りは、10月の第1土曜・日曜が秋の例大祭。春の例大祭もあるけど、担当地域の人が行って、神主さんが来たりする程度なんです。しかし、秋の祭礼は、神輿や山車を出したりね。山車には太鼓で、その太鼓の山車を小学生や幼稚園生が町内を引っ張って歩くんですよ。それと大人の神輿、子ども神輿もあって、これが坂戸町内を1周します。

◆暮らしの変化

この辺りは犬や猫をよく飼っていました。猫はネズミを捕るっていうんでね。犬は留守番、番犬。農家ってね、田んぼが遠くてもあまり家に鍵をかけないよね、今みたいに泥棒

なんかいなかったし。私が以前住んでいた家は、鍵といっても内側からクルクル回すようなものだったから、外へ出るときは鍵なんてかけないんだよね。夜寝る時にかけるだけで、のどかだったから。でも、だんだん人も増えてきて、物騒になってきたから鍵をかけた方がいいよってことで、かけるようになった。

(平成29年11月27日取材)